

第1章 事業の概要

1. 趣旨

グローバル化が進展する国際社会・地域社会を牽引する次世代リーダーが求められている。「世界青年の船」事業（SWY）は、こうした観点から、世界各地から多様なバックグラウンドを持つ青年が集い、ディスカッションやワークショップ、文化交流を通じて異文化対応力、コミュニケーション力、リーダーシップ、マネジメント力の向上を図ることで、これらの能力を発揮して国際化の進展する社会に多大な貢献ができる青年を育成し、併せてグローバルな人的ネットワークを構築することを目的に実施している。

しかしながら、令和2年に感染拡大した新型コロナウイルス感染症は、いまだ全世界的に収束する見通しが不透明であり、対面方式の実施について、青年及び事業関係者の安全を十分に確保することが困難と言わざるを得ない状況であることから、これまで行ってきた「世界青年の船」事業の特色をいかしながら目的を最大限達成するよう、今年度はオンライン方式により、ディスカッションやワークショップを実施する。

2. 事業内容

本事業では、日本と世界8か国の青年が4日間のオンライン交流を以下のプログラムで行った。

(1) テーマ別講義

世界的な共通課題である持続可能な開発目標（SDGs）をコース・ディスカッション（CD）の共通テーマとして4つのテーマ（社会問題（貧困、飢餓、教育等）、ジェンダー平等問題、経済問題（雇用、経済格差等）、環境問題（気候変動、海洋問題、生物多様性等））に分かれ、当該分野に造詣の深い有識者の講義を受講し、知見を深める。

(2) ディスカッション

左記（1）の4つのテーマに分かれて、ファシリテーターの指導下、ディスカッションを行う。

(3) ワークショップ（文化紹介）

ワークショップスタイルの異文化体験を通し、参加青年は異文化に対する理解を深め、国際的な視野を身につける。

(4) 成果発表

プログラムで得られたディスカッションとワークショップ成果について、それぞれ発表を行う。

3. 日程

事項	日程
日本参加青年選考 オンライン面接試験	令和3年8月22日（日）、27日（金）、28日（土）、29日（日）
ファシリテーター会議	令和3年11月4日（木）、11月8日（月） 令和4年1月15日（土）、22日（土）、29日（土）、2月12日（土）
日本参加青年事前研修	令和3年12月4日（土）、12月11日（土）
「世界青年の船」事業 （オンライン）（SWY Online）	令和4年1月15日（土）、22日（土）、29日（土）、2月12日（土）
日本参加青年の成果報告	準備日：令和4年2月19日（土）、実施日：26日（土）

4. 参加国

参加国は次の9か国で、これらの国から合計76名（外国参加青年37名、日本参加青年39名）の青年が参加した。

オーストラリア連邦

ニュージーランド

オマーン国

ポーランド共和国

ロシア連邦

南アフリカ共和国

スリランカ民主社会主義共和国

スウェーデン王国

日本

※以降国名は全て略称表記とする。

5. 参加青年（PY）

（1）人数（定員）

外国参加青年：1か国5名（8か国）

日本参加青年：40名

9か国合計80名

（2）日本参加青年の選考

内閣府は、次の応募資格を満たしている応募者に対して、書類選考を行った後、オンラインにて面接を行った。

- a. 日本の国籍を有し、令和3年4月1日現在、おおむね18歳以上30歳以下であること。
- b. 心身が健康で協調性に富み、事業の計画に従って規律ある行動ができること。
- c. 日本の社会、文化等について相当程度の知識を有すること。
- d. 交流対象国に対して関心と理解があること。
- e. 本事業における活動（ディスカッション等）を円滑に行うことができる英語力を有すること。
- f. 事前研修、オンライン交流、成果報告の全日程に参加できること。
- g. 本事業終了後もその経験をいかして社会活動を活発に行うことが期待できること。
- h. 自らの負担でオンライン交流に必要な機材（パソコンのほか、インターネットに接続できる環境等）を準備できること。

※本事業に参加したことによって、来年度以降の「世界青年の船」事業を含めた内閣府の行う青年国際交流事業への参加の妨げになることはない（本事業参加者も、来年度以降の内閣府の行う青年国際交流事業に参加可能）。

※令和2年度の内閣府の実施したオンライン交流事業を含め、過去の内閣府の青年国際交流事業に参加した方も応募は可能である。

（3）外国参加青年の選考

外国参加青年の募集は、外務省及び参加国を管轄する日本国在外公館を通じて参加国政府等に推薦を依頼した。資格要件は、次のとおりであった。

- a. 令和3年4月1日現在、おおむね18歳以上30歳以下であること。
- b. 当該交流対象国に在住していること。
- c. 心身が健康で協調性に富み、事業の計画に従って規律ある行動ができること。
- d. 日本に対して関心があり、今後、自国と日本との交流拡大と友好促進を担うことが期待できること。
- e. 自国の社会、文化等について相当程度の知識があること。
- f. 自国以外の交流対象国に対して関心と理解があること。
- g. 本事業において、大学レベルの議論等諸活動を円滑に行うことができる英語力を有すること。
- h. 日本参加青年とのオンライン交流の全日程に参加できること。
- i. 自らの負担でオンライン交流に必要な機材（パソコンのほか、インターネットに接続できる環境等）を準備できること。

6. ファシリテーター会議

「世界青年の船」事業（オンライン）におけるディスカッションの目的などについて、ファシリテーターに共通認識を持ってもらうとともに、その運営方法等について協議、情報交換等を行うことにより、ディスカッションの円滑かつ効果的な実施に資するため、ファシリテーター4名及び統率相談員とオンラインにて、ファシリテーター会議を開催した。

【ファシリテーター会議協議事項】

第1回（令和3年11月4日）

- (1) 「世界青年の船」事業（オンライン）概要と日程
- (2) ファシリテーターから課題、ディスカッション・プラン、基調講演者候補について説明及び意見交換
- (3) コース・ディスカッション成果発表の発表形式
- (4) PYの事前課題

第2回（令和3年11月8日）

- (1) ファシリテーターからコース概要の変更点の説明及び意見交換
- (2) 慎重に扱うべき話題への対応
- (3) 日本参加青年事前研修プログラム内容の説明

【ファシリテーター】

ディスカッション・グループ	氏名	性別	国名
社会問題	Ahmareen Farah	女	カナダ
ジェンダー平等問題	Eugene Cubilla Sosing	男	フィリピン
経済問題	Aida May Bergado-De Guzman	女	フィリピン
環境問題	May Ali Khalfan	女	バーレーン

【統率相談員】

氏名	性別	国名
中沢聖史	男	日本

*統率相談員：日本参加青年に対し、事前研修、オンライン交流、成果報告が一連の事業として青年の育成に資するように青年のまとめ役・相談役となる。

第3回（令和4年1月15日）

- (1) コース・ディスカッションIの振り返り

第4回（令和4年1月22日）

- (1) コース・ディスカッションIIの振り返り

第5回（令和4年1月29日）

- (1) コース・ディスカッションIIIの振り返り
- (2) コース・ディスカッション成果発表に向けた準備

第6回（令和4年2月12日）

- (1) コース・ディスカッション成果発表の感想、振り返り



7. 日本参加青年事前研修

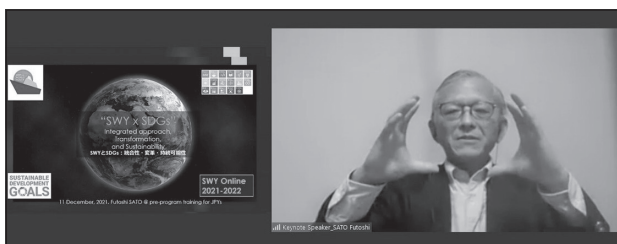
日本参加青年事前研修が、令和3年12月4日と12月11日にオンラインにて実施された。本事業の趣旨、内容等について理解を深めるために必要な基礎知識及び参加青年としての心構えやディスカッションの基本情報の習得などについて、統率相談員やファシリテーターからの指導を得ながら、外国参加青年とのオンライン交流に備えた諸準備を実施した。約40名の日本参加青年は統率相談員のリードの下、お互いを知る場として、自己紹介やプログラムから得たいことなどを共有した。また、各ディスカッション・

コースに分かれ、ファシリテーターと共にセッションの時間を持った。基調講演者として「世界青年の船」事業に4度アドバイザーで乗船した経験を持つ、バルセロナ自治大学・環境科学技術研究所出身の佐藤太氏を迎え、「SWYとSDGs：統合性・変革・持続可能性」というタイトルでSDGsに関する講演を行った。このセッションを通じて日本参加青年はSDGsのテーマと現状について知識を深めた。また、日本青年国際交流機構（IYEO）が組織の説明と活動事例を紹介した。

8. 日本参加青年の成果報告

日本参加青年の成果報告が、令和4年2月26日にオンラインにて実施された。その準備日を2月19日に設け、日本参加青年は、統率相談員と共に、本事業で得た知識や経験などを広く共有、発表することを目的に成果報告へ向けた準備を行った。その後、本番に向けて報告会実行委員会を中心に、原稿準備やリハーサルが行われた。成果報告では、本事業を振り返り、今後の活動についての展望を明確

化するとともに、事業を通じて得た経験や学んだことを集約しまとめ、成果として報告した。テーマ「世界青年の船 オンライン国際交流のリアル～時差と海と言語を越えて～」に沿い、ディスカッション体験やパネルディスカッション、参加者（視聴者）との意見交換が行われた。また、次年度事業説明や事後活動について紹介を行った。成果報告には、71人の参加者が集った。



佐藤太氏による基調講演



事前研修の様子



成果報告終了時の様子